

週刊 武四郎

第47号

2019年(平成31年)2月27日(水)
発行・松阪市

●毎月第四週は、
松浦武四郎のコレクション
についてご紹介します

監修・松浦武四郎記念館

コレクター気質

収集癖、というのは圧倒的に男性の方が多いようです。男子は小さい時から切手とかプラモデルとか……集めるのが好きなんですね。

武四郎さんは「探検家」とか、「北海道の名付け親」とか「アイヌの現状を記したルポライター」といわれていますが、やはりその人生に通底しているのは、「旅人」と「コレクター」としての気質ではないかと思えます。

武四郎さんは、幕末の頃、蝦夷地に都合六回渡り、アイヌ語の蝦夷地の地名を克明に記録しました。その数、九千八百ともいわれています。気の遠くなるような数字です。

武四郎さんは、記録魔でした。ものすごい速さで書いていくので、筆の持ち方が指一本で軽く

握る……という風に、独特だったそうです。それで目にもとまらぬ速さで書いてゆく。手紙もいっぱい書きました。幕末の混沌とした中で武四郎さんの手紙は重要な情報源だったので届くとみんな争って書き写したといえます。

ところが武四郎さんの字が汚くて……読めない！

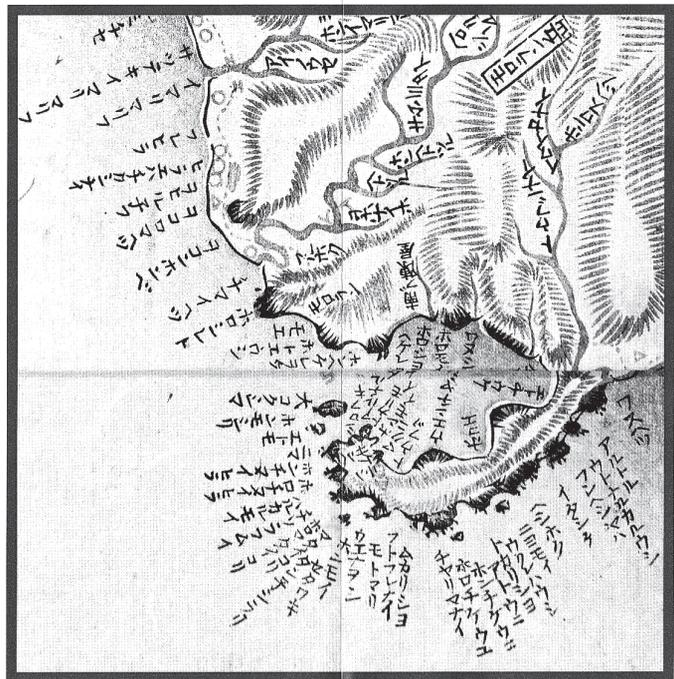
親しい友人がたまりかねて武四郎さんに送った苦情の手紙が残っています。

「今少し、テイネイに落ち着いてお書き下され」

ちよっと笑っちゃいますね。でも、武四郎さんはいつも一生懸命でした。旅の途中では宿に着いてもその日の記録を全部つけ終わるまではけっして草鞋を脱いで上がりませんでした。蝦夷地探検中は、先に休んでい

る案内人のアイヌを叩き起こして「あの川の名前はなんだっけ？」と聞いたりしました。

このものすごい情熱は、へ地名を蒐集するコレクター気質に支えられていたようにも思えます。明治以降、武四郎さんは趣味の世界の蒐集に邁進します。



▲「東西蝦夷山川地理取調図」(1859)部分 松浦武四郎記念館蔵

松浦武四郎 (1818 ~ 1888)

三重県松阪市出身。幕末から明治にかけての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地(今の北海道)を6度にわたり探査し、アイヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷地に代わる新たな名称として(北海道)のもととなる(北加伊道)を含む6案を政府に提案したことから(北海道の名付け親)と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

●松浦武四郎を主人公とした小説『がいなもん 松浦武四郎一代』(河治和香著)が、小学館より好評発売中!

